令和６年度第２回ピースツーリズム推進懇談会　会議要旨

１　開催日時

令和７年２月２７日（木）１４時００分から１６時１５分

２　会場

広島市役所本庁舎１４階第７会議室

３　出席者

懇談会構成員

団　体　名　・　役　職	氏　名
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田　浩【座長】
広島市立大学広島平和研究所　所長	大芝　亮
広島大学平和センター　准教授	ファン デル ドゥース 瑠璃
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima　理事長	渡部　朋子
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局　事務局長	橋村　秀樹
広島市市民局国際平和推進部　部長	山藤　貞浩
広島市経済観光局観光政策部　部長	中田　忠

（計７名、欠席２名）

オブザーバー

広島市市民局文化振興課長（１名）

事務局

広島市経済観光局観光政策部　観光プロモーション担当課長、主任、主査（計３名）

４　議題

⑴　令和６年度下期の取組

⑵　令和７年度の取組（予定）

⑶　その他平和に関わる本市の事業についての情報共有

５　公開・非公開の別

公開

６　傍聴人の人数

０名

７　会議資料名

資料　　ピースツーリズム推進懇談会（令和６年度第２回）

８　発言の要旨

【令和６年度下期の取組、令和７年度の取組（予定）について事務局から説明】

（大芝委員）

平和記念資料館のウェブ申し込みについて、海外の主にどの方面が多いか尋ねたところ、アジア系の方が少ない印象だと伺った。そのため、アジアからの来広をもう少し増やすことができるような取組があると良い。今ですら来館者が多いのでこれ以上増やす話もどうかというのはあるが、以前に渡部委員も言っていたように、平和記念資料館のキャパシティがニーズに対して足りていない。G7 広島サミットやノーベル平和賞の受賞もあり、被爆 80 年後に向けて、第二資料館ぐらいのものが必要な印象だ。

それから、私は以前、秋田県の高校生に広島の話をする機会があり、その時に基町高校の原爆の絵の制作について、「同じ高校生がこんなことをしているのかと良い意味でショックを受けた」と言われた。生徒も教員もそのように言っており、この取組は高校生に強烈な印象を与えており、伝えていくことが非常に大事だと思った。次の世代への継承を考える時に、広島から発信する中でとてもインパクトが大きく、ターゲットもはっきりしているので、ぜひ伝えていけると良い。

（渡部委員）

大芝委員の発言に関連して、「平和記念資料館のキャパシティ、許容量を大きくしていくことがこれからの広島には大事だ」と、至る所で申し上げている。費用の問題等もあると思うが、平和記念公園の中でスペースを取ろうとすると国際会議場を上に上げるしかなく、そうすると建て替えの時期等と合わせて考えた方が良い。あるいは、平和記念公園全体や広島市内の被爆建物も含めて、平和関連施設のグランドデザインを作り始める被爆 80 年として、10 年先、20 年先を見据えてそれに着手する検討委員会の様な横断的なものを考えなければいけない。

もう一つ申し上げたいのは、広島駅の再開発が進んでいるが、駅の表の顔を見た時に残念ながら平和都市の顔には見えない。品川駅を作っているような感じだ。JR 広島駅の表の顔について、今ある建物以外に何を加えたら良いか考えると、駅前には緑がない。緑がなくなれば平和もなくなるということで、これから緑あふれるまちにどのようにしていくか。

また、中がどうなるかまだよくわからないが、広島駅の中に平和を伝える施設がどれだけあるだろうか。あの近辺は商業施設ばかりで、とてももったいないと常々思っている。そこで、中央図書館が駅前に移転するので、ピースツーリズムの拠点も含めて、人が集まる中心的な所に、平和について考えたり、情報提供したりするスペースをこれからでも工夫次第で作れると思う。そして、中央図書館が移転すれば、広島の歴史や地理など様々な情報も提供しやすくなるので、来広者がそこにアクセスできるようにすると良い。来広者は広島で探したいものを何か持って来ているので、そういう方がそこに行くと、こう周ればそれに近いものを得られるという様な、総合的なインフォメーションが欲しい。

それから、海外の方から平和教育に対するニーズがすごく高い。広島でどの様な平和教育が行われているかだけでなく、平和教育の考え方も含めて幅広い平和教育に出会える場がなく、どうなっているかという質問をよく受ける。今、世界中で紛争がある中で、紛争が終わり停戦や休戦になった時に、どうやって平和の心を取り戻すか、どういう教育的なアプローチができるかというニーズが出てくる。そうしたものを広島が提供することは、大きな支援にもなるし、リベンジではなく平和に向かう道を自分たちの体験から示すことができるのではないかと考えている。

例えば、市民ボランティアの方がビブスを着て案内しているが、あれは窓口ではなく、行きたい所まで共に歩き、その途中に会話をするのが双方にとってとても良いそうだ。人が関わる様々な場面を作り、

例えば「海外の人と何か交流したい」という高校生や大学生がいれば、そういった青少年達向けの窓口を作り、彼らが伝えたいことを伝えたり、少し案内をすることで会話ができたりする。今あるものを膨らませ、広島が培ってきたものと合わせて提供できるようにすれば、だんだんソフト面で駅が広島の顔になる。とにかく、賑わいだけではなく、平和がないと人は来てくれない。皆、平和を求めて来るので、そういう仕掛けができればとても良い。これを全庁的に、都市計画や開発の部署等に話をしていただけたらありがたい。

市長は以前に「花と緑と音楽」と言っていたが、最近その影が薄くなっている。花と緑と音楽は平和を象徴するものでもあるので、もう一度そこに立ち返り、今あるものの中でどういうものをどういう風に提供できるかを考えてもらえると良い。

（橋村委員）

報告を聞き、年々継続することによって、平和というものが周知されていくのかなと思った。その中で、先程大芝委員の話にもあった様に、一番刺激を受けるのは若い世代である。我々や 30～40 代の世代は、こういう発信をしてもそこまで刺激を受けないのではないかと思う。ウェブサイトのアクセス数やインスタグラムのフォロワー数が毎年増えるなど徐々に成果が出ているので、ぜひ継続して若い世代が刺激を受ける様な、しっかり伝わる様な内容にしてほしい。

それから、今年被爆 80 年を迎えるということで長崎といろいろ連携をしているが、どういうキャンペーンをやっていくか気になっている。先日、チャイナエアラインの航空部長と話す機会があり、台湾から岡山、松山、広島など中四国のいろいろな空港で便があるが、中国地方の台湾線のインバウンドの中では広島が一番少ない。それはなぜだろうと部長も首をかしげていた。私見では、やはり戦争に対する意識があるのだと思う。香川が最近増えているのは、今度瀬戸内国際芸術祭があるからだろう。芸術は、アジアの方も行きやすい部分がある。この 4 月から、今までは広島だけアウトバウンド向けだった路線の時間帯がインバウンド向けになり、他県に比べてこれまでは PR もできていない状況だったが、広島も一生懸命やっていくと言われていた。

ただ、若者達がたくさん興味を持っている部分もあると思う。当然芸術や平和学習もそうだが、そういうところに訴えて、広島に来てもらう、あるいは平和を体験してもらう様な形にしてほしい。

（瑠璃委員）

先ほどの事務局報告で、まず、カレンダーについて。これは以前に渡部委員から「せっかくフォトコンテストの応募作品があるので、何かに使ってみたら」と提案されたものが、具体的な形になり、市民参画という観点から素晴らしい。ウェブサイトを見ると、QR コードがあり、すぐにアクセスできて良いし、ダウンロードもできる様になっている。もう一つお願いしたいのが、スマホ用のデザインやピースツーリズムのアプリもあると良い。例えば壁紙として使えるようにして、スマホで持ち歩き、バナーやポップアップで情報を受け取り、常にピースツーリズムのことを考えるような形にしてほしいと思った。

また、ウェブサイトの最後にインスタグラムと X のアイコンがあるが、むしろピースツーリズム関連のサイトに直接リンクがあるという形にしてほしい。そうすれば、「フォトコンテストの作品」を見た後で再度「ピースツーリズムって何だっけ」という風に戻って学べる。さらに広島を徒歩や自転車、電車、タクシーなどで巡るツアーなど公共・民間のサービスへのリンクがあれば、フォトコンテストに応募した人達やそれに興味がある人達と観光サービスを提供する側が、つながっていける。

それから、「ピースおこ」の報告をいただいたが、その関連で、世界各地でお好み焼、もしくはそれに

似たようなものを作っているレストランのネットワークはあるのか知りたい。例えば、オランダのホスピタリティ産業、HoReCa（ホテル・レストラン・カフェなど）で、お好み焼店が話題になっていたが、海外のそうした飲食関係のグループに、この「ピースおこ」の取り組みに参画してもらい、ピースツーリズムを広報できないかと思った。

次に、「ぴーすくる」がだんだん充実してきたようで素晴らしいが、高齢者の方や運動機能障害を持っておられる方にはぴーすくるが難しいので、また「めいぷる～ぷ」にも登場いただけないかと願っている。先程、渡部委員が言われた様に、平和記念資料館がもう一杯だということで、袋町小学校平和資料館やシュモーハウスなどへの人の流れを作りたい。それらのサテライト資料館や、比治山の平和の丘もつなげていけると思う。平和の丘には G7 関連の展示もあるし、現代美術館をぜひとも見ていただきたい。それから、元 ABCC のかまぼこ型の遺構を見て話ができるような、新しいピースツーリズムができないものだろうか。将来、あの遺構をどのように活用するかわからないが、できれば文化施設にして頂きたい。そこで学習できたり、宿泊できたりする様な施設があればありがたい。さらに、比治山には陸軍墓地がある。あそこまで行けば、フランス、ドイツ、台湾、中国、日本といろいろな国や地域の墓石があるので、そこから宇品港を見ながら学び、交流ができるのではないかと思う。そういったピースツーリズムを作ることによって、今のところ平和記念公園に集中し、そこで終わってしまっている動き（回遊性）を、なんとか広げていけないだろうか。そこで登場するのが、「ぴーすくる」と「めいぷる～ぷ」ではないかと思う。例えば、広島の特色の一つとして、高齢者や障害者に対するピースツーリズムの可能性も、移動の簡便性を整えた上で、広く周知したいものだ。障害者団体も含めて、国連にも障害者権利条約に関わるいろいろな団体の情報もある。そういうところとつながっていくこともできるのではないか。そして、めいぷる～ぷを使うスタンプラリーのようなものはできないか。

回遊性といえば、先日倉敷に行ったが、なぜ倉敷にあそこまでインバウンドの人が行くのか調べると、見どころが分かりやすく、休憩所が多い。歴史も勉強でき、その間、間で休むところがある。景観の全体的な調和が取れていて「町全体が絵になると聞いてやって来た」という訪問者が多かった。また、あちこちの古民家カフェに行くと小さなポストカードがもらえ、専用の手帳を買えばスタンプラリーになっていて、それ自体がお土産になる、という具合で非常に充実していた。景観の調和や回遊性が成功の鍵だが、同じことを広島でもできるかもしれないと思った。小さな手帳の様なものに、押さえるべき所やインスタ映えする所が書いてあって、それを全部まわるとすれば、例えばめいぷる～ぷやぴーすくるも使いたい、となり、使えば最後にノベルティの様な物ももらえると、1 泊で終わらないからもう少し泊まろうか、となる。そういうことで、ぜひ景観の調和と回遊性、移動の簡便性を軸に広島全体的なツーリズムの計画をお願いしたい。

また、訪問者が「当事者感を得るツーリズム」を検討していただきたい。例えば、シュモーハウスの場合も、インバウンドにとって、「広島の人たちが頑張った復興のプロセスに、海外の人々も関わり、共に広島の復興をめざした」というナラティブ（物語）を広げる。すると、訪問者の当事者感がまた強まっていくのではないか。さらに、朝鮮半島出身の被爆者も、南方留学生の話も、そのほか様々な背景の被爆者の経験を盛り込んだナラティブを、ピースツーリズムの一環として国内外に広報していく取り組みを推奨したい。自分との関係性を感じれば、そこに行って見てもっと知りたいと思うものだ。そうすると従来の被爆・復興ナラティブから、「様々な国籍や文化的背景の人々の被爆と広島の復興」というナラティブに広がっていくので、訪問者にとっても、現地への敬意や平和への責任感が生まれる。インバウンドの広島での過ごし方にも良い影響があると思う。そのためにも、とにかく遺構から遺構へ、資料館からサテライト資料館へなどスポットを結ぶ足をぜひ充実させていただきたい。それが「循環してい

る」と、移動の簡便性から、広島に来る前に旅程を計画しやすくなる。

それから、今後平和記念資料館でも修学旅行に注力するとのこと。今のところは、何を教えるかというところに力を入れているようだが、「教える」だけでは「継承」にならない。教育と継承は違う。継承は、自分が受け継ぎ、その次の世代に向けて行動することなので、そこにピースツーリズムをもっと組み込んで欲しい。つまり、修学旅行者や引率の先生方に対しても、「ピースツーリズムをご存知ですか。「ぴーすくる」や「めいぷる～ぷ」もあるので、下見にもぜひ使っていただきたい」とアプローチしていってもらいたい。修学旅行のルートとして、発見型のピースツーリズムが当たり前になってほしいと願っている。教育と継承においては、思考や感情を表現することの大切さ、表現するから継承につながる部分が大きいので、ぜひ高校生が描く被爆者の絵についての情報を、修学旅行を計画する人々に共有してほしい。来て、見てもらい、その後、自分でもやってみたいという方がいれば、その学生を広島に招へいして、表現するプロジェクトを組むことも考えられる。例えば、秋田の高校生が基町高校の皆さんと一緒に行ったプロジェクトの成果を 11 月の平和文化月間で発表するといった場があると良い。さらに言えば、ピースツーリズムは、11 月にある映画祭と、もっと連携できないか。

最後に、平和記念資料館の待ち時間を大きく減らしたウェブ予約や券売機の設置は素晴らしい。入館者にアジア系が少ないという話があったが、言語対応の他に広報を充実していってほしい。来る前の計画時点で情報をどこから得たらいいか分からず、結局お決まりのコースで平和記念資料館と平和記念公園を見て終わってしまったという声もあるので、計画の時点でコンタクトのリストが入手できると良い。例えば情報面や体験型学習で ANT-Hiroshima をはじめ、各種団体の連絡先がわかると便利だし、ピースツーリズムの情報をより充実させて多言語で対応が可能な Web サイトを用意したり、YouTube でピースツーリズムの動画を発信するなど、まだまだ、できることがあるかもしれない。たとえば「ここに行ってみた」「インスタ映えするのはここだ」というような短い動画を国内外の訪問者に投稿してもらうのも良い。今後は、既存の様々な取組と、ピースツーリズムを繋ぎ、連携を強化していくことで、全体的につながりと広がりがあり、訪問を計画しやすい街になって欲しい。被爆 81 年からの計画として、来て、見てもらって、AI などヴァーチャルでは得ることができない生の広島の体験を宣伝していくことができればと思う。

（山藤委員）

平和記念資料館の入館者数の状況について参考資料を配布しているが、これは、今年 1 月末までの待ち時間と朝夕の延長時間帯の利用状況、ウェブ予約状況、そして外国人の割合を整理したものだ。

入館者数は 1 月末で約 195 万人となっており、その後ニュースにもなったが 2 月 15 日に 200 万人に達して既に過去最多となった。このままいけば来月上旬には開館以来 8,000 万人に達する見込みで、その際はちょっとしたセレモニーを考えている。この 1 月末時点の入館者数は、対前年度比では約 15%増加しており、このままいくと最終的には 220～230 万になるのではないかと思う。

混雑対策については、昨年度から説明しているとおり平和文化センターと一緒に様々な対策を行い、今年度、30 分超の待ち時間は合計で 6 日と入館待ちについては大幅に改善できている。

続いて朝夕の延長時間帯の利用状況について、1 日の上限は 1,200 人の設定だが、利用率が 26.7%とまだ少なく、来訪者の都合もあるがまだまだゆとりがあると思っている。混雑と言いながらも、時間帯によってはゆっくり見られる状況もあるので、引き続き館内の混雑解消については力を入れてやっていきたいと考えている。開館延長時間が分かりやすいようにチラシ（参考資料 2）を作り配布しているが、直接話した方が理解していただけるので、ホテルに出向いてお願いをしたり、観光部署を通じて市内の

観光案内所等にも配布を依頼したりしている。

さらには、平和記念資料館の東館1階に、核兵器廃絶を求める国際的な動向に関する最新情報や核兵器の非人道性への理解を深めていただく展示があるほか、地下1階にも新たにこども向けの展示を整備する計画があり、こうしたことも混雑解消の一助になると思う。これは数年内の話で、短期的な取組になると思うが、頑張っていきたい。

先程の意見にも出たが、平和記念資料館に人が集中しているので、他の施設にも行ってもらう仕組みや仕掛け作りが、まさにピースツーリズムでやっていくべきことだと思っている。他の平和関連施設で言えば、逓信病院のリニューアルが進んでおり、来年4月にはオープンできる予定でかなり良いものになると思うので、また折を見て皆さんに紹介したい。また、本川小学校や袋町小学校の平和資料館も今、施設整備が進んでいるので、その辺りへの誘導も意見を伺いながら一緒に考えていけたらと思う。それから、シュモーハウスは、アメリカ人の方が広島へやって来て、被爆者の救済、支援をしたということを、多くの人に知ってもらうべきだと思う。ただ、アクセスが非常に分かりにくいので、めいぷる～ぷが回れるように等、何とかできたらと考えている。

それから、皆さんから出た意見の中で、ピースツーリズムの拠点はやはり必要だと思う。レストハウスなどの観光案内所もあるが、私が普段平和記念公園内にいて思うのは、やはりあそこに一番たくさん来られるので、「次はこんな所がありますよ、こんな所に行ったらいいですよ」という様な案内がもっとできたら良い。平和記念資料館に多くの方が来てそこだけで終わってしまっては良くないので、広島の他の見所も回ってもらえるように考えていきたい。

そして、アジアからの来広が少ないことについては、ウェブ予約を始めてそのデータから判定ができるようになった。外国人の内、アジア人は少なく、半分以上がアメリカで、もっとヨーロッパが多いのかと思ったので意外だった。核大国からこんなに来ているというのは大きな発見だったので、そうした点も分析しながら、他の国も増えるような取組を考えていきたい。それで、第二資料館という話になるとスケールが大きく何とも言えないが、被服支廠等、長期的にいろいろなことを考えていかねばならないので、ステップとしては本川小学校、袋町小学校、逓信病院をきっちりやり、先を見据えて取り組んでいきたい。

（原田座長）

この懇談会を始めてから7年位になるが、当初はどういう格好でモデルコースを作るか、めいぷる～ぷのJRバスとも相談しながら検討してきた。特に、比治山へは元々1時間に2回バスが通っていたが、客がいないから1回になってしまった。旧ABCCも移転するので早急に手を着けていく必要がある。

過去に大きな議論になったのは、本川小学校と袋町小学校の問題だった。当時、平和記念資料館本館が全面クローズしている中で、本川小学校平和資料館も土日休館になっているということで皆さんから意見をいただいた。しかし、平和記念資料館は平和推進課が、本川小学校は教育委員会が所管しているので、資料館や小学校だけで議論すれば良いわけではなかった。幸いにも当時の本川小学校の校長先生が熱心に私達の後押しをしてくれ、この懇談会で4者の調整をして、前に走り始めたケースがあった。

それから、山藤委員から発言があった様に、やっと本川小学校と袋町小学校の展示更新をしようというところまで来たが、これも教育委員会や市民局との議論を経て今日がある。この懇談会の中で様々な議論があって、一歩一歩前に進めている。

大芝委員が言われた原爆の絵の取組は、非常に反響が大きいが、被爆者がいなくなったら成り立たない。北海道に音威子府（おといねっぷ）という人口600人位の小さい村があり、元々は普通科4年制の村立の定時制高校

を持っていたが、生徒が少ないのでどうやって学校を生かしていくかという議論の結果、「工業や商業の様な一般的なものではなく、どこにもないような高校にしよう」ということで美術工芸高校が誕生した。

私が旅でそこへ何度も行く中で、基町高校の生徒と交流する話が出たが、いくら美術工芸の専門でも、生徒の想いとしては綺麗な風景や人物等を描くという前提で学校の授業をやっていたので難しく、では広島に来て基町高校と協議をしてくれないかと話したが、距離が遠いこともあり難色を示された。結局、一度広島へ行ってみようという意見があり数年前に来てくれて、意義深い取組だということでそれからずっと交流してきたが、それもコロナで頓挫してしまった。数年前には、福岡県の大学でも被爆者の絵を作り、それを残そうという動きも出てきた。私も基町高校の取組のモデルになって 10 枚近く作り上げてもらったが、生徒の行動を見ていると、実はものすごく悩んでいる。「どうしてこんな絵を描かなければいけないのか」と言いながらも、学校の方針として何年もやってきたことだし、自分の足跡として残していこうと、先生方も覚悟を持って取り組んでいる。だからこそ今日まで続いてきたのだろう。訴える力が非常に強いのは、生徒達と議論してみると、結局は私達被爆者と心がつながらないと描けないからだ。作文したり、式を作ったりするのと全く違い、自分の絵筆で描いていくのだから、自分のものにしないと描けない。スケッチから始まり、水彩、油絵という過程を踏んで、苦しみながら仲間や教員の支えによって出来上がるのが原爆の絵だ。体験の継承という意味から考えると、これは極めて意義があると思う。上辺だけの体験継承ではだめで、中に入り込んでいくことを使命として受けてくれるので、残るような絵が描けるのだろう。

それから、渡部委員からの意見について、私は広島駅で被爆したので、あそこにモニュメントを残してほしかった。しかし、それは叶わず現在の様な広島駅になり当時の残骸は全くない。今できているビルは確かに近代的な最新技術を持った素晴らしい駅舎になっているが、広島として肝心の平和に対するメッセージが伝わるかというと、中身はまだ分からないが恐らくないだろう。私は以前、広島駅の列車到着メロディーに『ひろしま平和の歌』の曲を採用できないかと相談したが、番線が多いから難しいということで、結局、今は広島駅の自由コンコースで朝の 9 時と夕方の 5 時にその曲が流れる様になった。広島駅のコンコースには折り鶴の様な時計がモニュメントとしてあるが、後は何もない。だから、『ひろしま平和の歌』の様に一つ一つに手をつけていくことができれば、より大きな成果が出てくるのではないかと考えている。

橋村委員が言われたウェブサイトの若者の問題については、引き続き取り組む必要があると思う。

それから、比治山の平和の丘構想については、現代美術館が旅行者を引きつける力が必要だ。私は文化財団の理事長として現代美術館の館長を兼務していたので分かるが、学芸員は専門的なことにこだわりを持ち、そこに特化して頑張ってくれるのは良いが、やはり広島市立の美術館なので、市民に受ける内容の企画を引き続きやってほしい。最近良くなっているが、入館者数では平和記念資料館には到底及ばず、まだまだ少ない。そこは、この懇談会の最初にとりまとめた目指す姿として、より広く平和と文化を融合した大きな事業展開をしていくことが重要だ。最近、市長も「平和文化」と言っているが、実は「平和と文化」の話はこの会で出てきた意見である。それを市長にも報告をしたことが、恐らく発端になったのだと思う。

拠点施設の問題は、最初の頃に議論になった。山藤委員からも話があったが、大きな仕掛けを考えるとなかなか前へ進めないので、例えば、国際会議場のロビーに被爆者や一般市民と来訪者との交流ができる机と椅子があるだけで良いと思う。市民と来訪者との接点をどう作るかも課題だ。

また、今日皆さんに意見を聞きたいこととして、おもてなしの心をどう相手に伝えるか。そのための

アイディアの一つとして、バッジ等を作れないかと考えており、事務局に相談している。あくまでアイディアの段階だが、見本を持参したので見てほしい。こういったバッジを着けることが、一つの契機になって広がっていかないかと思っている。デザインは、例えば、2 本の旗にして、1 本は日本の日の丸ともう一つはインフォメーションの i を入れてはどうか。英語圏の場合は、アメリカかイギリスの国旗と i は共通にする。こういったものを作って、皆さんに使ってもらうことによって、「これはインフォメーションのマークで、日本語の案内ができますよ」という気持ちになってもらえれば良いのではないかと思う。それから、私の妻がペルーへ行った時の写真を持参した。その写真の中で、男性が肩と胸の所にシールをつけていて、片方がインフォメーションで、もう片方が日本語のマーク。妻が言うには、このマークを着けている人には、日本語で案内してもらえるということだったそうだ。この様にいろいろなケースがあると思うが、皆さんの忌たんのない意見をいただけたらと思う。

それからもう 1 点問題提起というか、市で「被爆 80 周年」という言葉を使用しているが、報道の方では「被爆 80 年」としており「周年」という言葉は使っていない。市が「80 周年」としたのはそれなりの想いや習慣があったのだろうと思うが、「80 周年」と言うとお祝いの様な感じがする。祝い事なら「80 周年」で良いと思うが、敢えて 80 年事業で市が「80 周年」としたことに多少気がかりな思いもあるので、参考にしていただければと思う。

（中田委員）

私事だが、この 3 月に退職で観光行政もこの会議への出席も最後になるので少し想いを述べたい。

私は平和行政に関わったことはないが、以前観光部署にいた時に、レストハウスの改修に携わった。レストハウスの改修は、被爆体験も含めて平和行政を認識しながら進めて行かねばならない事業いうことで、今、「周年」と「年」の話が出たが、その時、座長にお世話になった思い出がある。レストハウスは令和 2 年 7 月 1 日にリニューアルオープンしたが、その際の広報で、我々行政は「グランドオープン」を使おうとしていた。座長にこうやりますと相談した時に、平和記念資料館の例を教えていただいた。「グランドオープン」は商業施設等が新たになった様な場合に使用するもので、レストハウスの外壁等は綺麗になったが、平和記念公園内に唯一残る被爆建物なのでそぐわないだろうと聞いた。そういう言葉の使い方や平和記念資料館の時のことを我々は誰も認識しておらず、あのまま出していたら世間を賑わすことになったかもしれない。その寸前に座長に相談して事なきを得たことが 1 番の思い出だ。私達も、被爆体験のある方や大正屋呉服店を復興させる会の方等いろいろな方と何度も話を重ねたが、オープン記念の名称までは相談せず、そうした意見も吸い上げることができなかったので、平和行政を進めていく中で観光も進めていく上で、過去に起こったこと等いろいろなことを引き継いで行かねばならないとその時に痛感した。

（原田座長）

平和記念資料館の本館を再オープンする時にも「グランドオープン」という言葉を使おうとしていた。それで、「悲惨な体験を伝えるのが平和記念資料館の役割なのに、グランドオープンとはどうなのか」と私も話をして、それを中国新聞が取り上げて、「グランドオープンとはどういう意味なのか」ということを書いてくれて、結局その時の記事には、「こういうことについて気にかかる人がいるのであれば、考えなければいけない。」と書いてあった。そういうことからも感じるが、やはり若い方になかなか被爆体験が伝わりにくい。この悲惨な体験は私にとって全く忘れることはできない体験で、それを今後は次の世代がどう関わってくれるか考えていかないと、対応が難しいのではないかと思う。被爆体験というのは、

私達いわゆる被爆一世が頑張るだけではない。今、恐らく県内の被爆者団体の3分の1ぐらいが二世になっていると思うが、話を聞いていると二世になると十分伝わっていないと感じる。あまり強く主張していくと、自分達の補償が欲しいのだと思われて市民の理解を得られないということもあり、言いたくても言い切れない気持ちもあるのではないかと思う。

やはり、広島市が生きるためには平和と文化と観光の行政が最も大事だと思う。だから、そこを外して今後の行政運営はできないし、この会が開かれたのも、広島の被爆体験が原点だ。

（瑠璃委員）

今年は、広島でパグウォッシュ会議もあり、長崎ではIPPNWもあると聞いているので、恐らく、ピースボランティアの方もそうだが、若い人達がどんどん自分の話せる言葉を使って、関わっていきたいのではないかと思う。そこで、広島市のボランティアとして、話せる言語を記したバッジなどを着けて活躍する制度があれば、自信を持って自分事として継承に関わっていけるのではないかと思う。そのために、もし可能であれば、日本旅行業協会にご協力いただき、市立大学や広島大学などの教育機関で、集中講座的に、おもてなしは何をすれば良いか、訪問者をどこにご案内できるか、ピースツーリズムとどう関われるか、そもそも被爆地の歴史や記憶とは何か、などを学び、コースを修了したらバッジがもらえるという様なシステムがあれば、理想的。外国人留学生も、それぞれにグループを作って何か広島に関わる活動もしているので、是非、活躍の場を提供したいものである。

（橋村委員）

まず、「80年」、「周年」の部分については、やはり私も「80年」が良いと思っている。どうしてもお祝い事のイメージに取られ、また100周年があるのかというような形になるので、これは歴史の一つと捉えて「80年経った」というような形で発信すれば良いと思う。

バッジはとても良いアイディアだ。話す言語によって色を変えて、例えば青のバッジはこの言語など、中に書かれているものは共通にして、それを実際に海外から来た方が見て、すぐ分かりやすいものにすれば良い。ちょうど80年を境に、そういう形で新たなおもてなしの仕方や新たな伝え方をするという意見には賛成だ。

（大芝委員）

私も「80周年」と「80年」は迷ったことがあり、シンポジウム等の企画を立てる時に、どちらが良いか話したことがある。こういうことが話題になるのは、「80周年」という言葉に抵抗を感じ、少し違うのではと感じるからだ。「80年」で通用するのであれば、言葉としてはニュートラルだ。フレーズとして節目であることを言いたいのだと思うが、「80周年」という言葉を使わずとも「被爆80年」という言葉で十分大きな節目であることは伝わるので、我々もそちらの方が良いということになった。

それから、バッジについては、私もお二人と同様に感じており、若い人はいろいろな意味で関わりたい気持ちはあるが、その気持ちを表に出すのは恥ずかしいところがあると思う。そういう意味では関わるきっかけとしてバッジはすごく役割があると思う。バッジを着けたということで覚悟を決めて、案内をどんどんやろうかとなるし、友達にも「着けているのだからやりなよ」と言われて入りやすくなると思う。そういう意味で、バッジを着けることは、自分の役割を認識する自己認識の点で良いきっかけで、非常に良いアイディアだ。バッジを着けて、渡部委員が言われたように一緒に歩いても楽しいと思う。

（渡部委員）

今日、広島市の職員がたくさんいるが、広島市の職員研修の中に、被爆の実相やその後の復興も含めてもう一度学び直しをする機会を作ることが大事ではないかと思う。よく、広島で生まれ育ち平和教育を受けてきたので知っていると言う若い方に会うが、話していくとそれで知っているとは言えないという感じだ。しかし、どこかで自分は知っていると思い込んでしまっている。これは市職員だけでなく、戦争や被爆の体験がない私達も含めてだ。だから、繰り返しその学び直しをするとか、その時代を生きた方、例えば今日の座長の話の様なことを聞き、繰り返し自分の中に重ねていくことによって、自分自身の強い思いや言葉になるのではないかと思うので、ぜひ 80 年に取り組んでいきたい。そのくらい広島市や長崎市の行政は、他とは違う一つのミッションを背負っているのではないかと思う。それは大変でしんどいことではなく、逆にそれを持って働けるのはやりがいがあることだ。私も行政ではなく一つの市民団体としてだがそういう風に思うので、ぜひそういう機会を作れると良い。

実は 7 年前から（医師で広島大学名誉教授の）鎌田七男先生を座長に被爆体験継承塾という名前で 1 年間の学びをやっている。3 月で 7 期生が修了するが、今ヒントをもらったので、修了証を渡すときにバッジとか何か着けられるものを贈るとか、人数が 100 人を超えたのでそのネットワークを作るのも良いなと思った。平和記念公園内のピースボランティアもジャンパーを着ており、あれを着るとシャキッとするそうで、そういうものは大事だ。バッジなら人と交換もできるので、積極的にやったら良い。

先程座長が言われた平和と文化と観光を言い換えると、今の世界状況も考えると国際的なネットワーキング、つながりを作ることだと考えると、バッジのアイディアも含めて本当に世界とつながれるまちになるには観光が重要だと思う。その視点で取組をすると、深い、人と人とが長くつながった観光になり、リピーターにもつながると思う。

それから、アジアに関連して、２月に平和首長会議と一緒にシンポジウムを開催したが、インドネシアは核兵器禁止条約に批准している。1955 年のバンドン会議から非同盟諸国が核の脅威にさらされている状況の中で、自分達は核を持たないという決議をして、その延長線でインドネシアという ASEAN の大国は核兵器禁止条約を批准している。ICAN の国際委員になられたムハディ・スギオノ先生という大学の先生が、帰られて原爆の絵の取組について、すぐメールが来た。インドネシアには悲惨な戦争、紛争の歴史もあり、それを次にどう継承していくのか、非常に心を打たれたようだ。先日、東京の聖心女子大学で核兵器をなくす国際市民フォーラムが開催され、その分科会で原爆の絵の展示をした。描いた女子学生も来て、どんな思いで描いたかという話をして、非常に良かったということだ。絵を描く側の生徒、教師の側、学校を挙げて熱心にやっている。双方向から学ばせてもらう機会というのは、単に原爆の絵だけではなく、今世界の様々な悲惨な状況を記録、継承していくために非常に良いのではないかという思いがした。

そして、人がたくさん来る所に拠点をという話があったが、ゲートパークが中途半端でもったいないと思っている。まだまだ使える可能性があるのではないか。南北の軸線上にあり、サッカースタジアムと平和記念公園とを結ぶ所というだけではなく、やはりそれなりの重さ、それなりの意味がある場所にできる所だと思うので、良い使い方をすれば、いけるなと思っている。もちろん広島駅にも拠点施設はあってほしい。皆さんが目指して来るのは原爆ドームや平和記念資料館だから、そこにある種のワンストップで、深みのある様々なインフォメーションを提供できる場所があれば、かなり深い観光をして、忘れられないつながりを持って帰ってもらえるのではないか。

（山藤委員）

今、渡部委員から市職員の研修について話があったが、私自身も知っているつもりでまだまだだ。時間がある時に平和記念資料館のビデオコーナー等に行くが、昼は特に人が少なくもったいない。もっと多くの人に見たり活用したりしてほしいので、もっと知らせる努力も必要だと思っている。若い職員にも声をかけたりして、前向きにやっていきたい。広島市のミッション、平和行政の原点は、被爆の実相と被爆者の想いだと思うので、しっかり伝えていける様に引き続き頑張っていきたい。

（原田座長）

広島城の中国軍管区司令部跡の問題も、やっと新年度から動き始めると聞いている。これまでは緑政課が担当で、どうにかしないと崩れてしまいそうだったが、緑政課からすると自分の所管ではないので、もう一歩踏み出して頑張るということがなかなかできなかった。これからは文化振興課の広島城活性化担当が所管するということで、先日から VR で再現するという情報が流れてきている。私の気持ちとしては、やはり被爆体験は、デジタルではなくアナログだと思う。だが、それをデジタルの方に持っていくという、一般的な思いがあるのかと感じる。それで本当にいいのかどうか。まだ被爆者は生きている者がたくさんいるのだから、そこをどうしてしっかりと活かしてもらえないのかという気もする。

この度やっと原爆ドームが特別史跡に申請されることになり、どうにか前に走り出した。私としては、今まで残してきた被爆建造物を一つ一つ全部国の指定史跡に指定して、それを将来的に世界遺産群としていくことができないかと思っている。原爆ドームが世界遺産になった時からそういう思いを持っていたので、そういう意味で活動していただければと思う。

それから、今日は文化振興課長に来てもらっている。以前に共通入場券の話があったが直前でだめになり、先程もスタンプラリーやめいぷる～ぷの話もあり、そういう所でつなげていけないかと思っている。恐らくあれ以降は議論していないのではないかと思うが、いかがか。

（尾髙文化振興課長）

現代美術館の共通入場券の話は、リニューアル整備のため臨時休館があり、立ち消えになっている状況だ。当時のアイディアは、現代美術館の入館者の低減や周遊性ということで出てきたが、今また状況が変わってきており、例えば広島城は来年度末で 1 回閉館するという中で、どういうやり方が良いか今考えているところだ。

現代美術館についての課題認識としては、やはり専門的な内容にどうしても特化してしまうので、そこのバランスはとても大事だと思っている。ピースツーリズムという観点においても、いかにして現代美術に興味がある方だけではなくて、様々な方に興味を持ってもらうような展示をするかやアクセスの工夫がいると思っている。現代美術館側もそういう思いを少しずつ持っており、特別展として perfume のコスチュームの展示というのを、ちょうどこの三連休から始めている。いろいろな方に間口を広めていくという意味では、そういうものも必要だということで、頑張って呼んでくれた。それで、昨年度リニューアルオープンして、リニューアル前は大体入館者の平均が 12 万から 15 万人位だったのが今 20 万人位にはなって、浮上傾向にあるので、引き続き力を入れていきたい。

めいぷる～ぷも確かに便数が少ないという話があるので、平和の丘全体の話だが、その辺りの課題を今日改めて認識したところだ。

（原田座長）

めいぷる～ぷについては、いろいろな格好で意見交換をしながら頑張ってきた。一つ課題になったの

は、平和記念公園のバス停をめいぷる～ぷも使うことになった時に、後から入ってきたので遠慮するしかなく、あそこの停留所を使うのは非常に気になるという話もあった。それで、向こうのタクシープールに持っていくのはどうかという意見もあり試してみたが、あの中ではバスが十分曲がりきれず、難しいのではないかとなり、現代美術館へ上ることを考えると、大きなバスは使えないという悩みもあった。

今、皆さんから出た意見で、被服支廠をどうするか。これは、私は緊急の課題ではないかと思う。被服支廠を残すことについては、私の高校の先輩が先頭に立って、私もメンバーとして取り組んだが、当時は県の財産管理課が持っており、財産をいかに健全に守るかしか考えていないので、そこをどう発展していくかという感覚は全くなかった。だから、「文化的な価値がこれほどあるのになぜ壊すのか」という様なことを言ったが、残念ながら当時はそういう検討すらしていなかった。恐らく湯崎知事としては残す必要があるという気持ちを持っていたと思うが、議会との関係で難しいこともあり、進まなかった。そうしたしがらみがありながらも今日の結果に至ったが、議員の中から「なぜあそこに膨大な金をかけるのか。確かに価値があるのかもしれないが、それより他にやるべきことがあるのではないか」という様な思いがあり、今もあるのではないかと思う。現状では、保存は決まったが補強と改修に 3 年かかり、その先に何ができるのか。そんなことでは、10 年先になる。4 棟で 400m あるので、それをそのまま放置するのはもったいないし、とりあえず 1 棟だけ市にもらうという話を聞いている。あとの 3 棟はまだ全然動いていない。あそこをどうするかという議論は、とても大きな議論になると思う。例えば、財団法人を持たなければ施設が持てない。県が直営でやるのはありえないと思う。財団法人を作り、平和記念資料館の様に司書や学芸員を育てるとなると、10 年はかかると思う。そういう格好でやったとしても、10 年先にはまだできないだろう。そこのところをどう解決していくのか。

それから、平和記念資料館の地下の第 1、第 2 会議室について、今我々被爆証言者も使用しているが、今後はこども向けの展示コーナーになるということで、どういう格好で使っていけばいいのか。証言者の皆さんからも動きがあり、ピースボランティアの皆さんの方からも意見があって、3 月に入ったら市と意見交換をしたいと今申し入れしているそうなので、そういったところも反映をしていただければと考えている。

繰り返しになるが、被服支廠は非常に貴重な存在だが、アクセスに問題があるので、めいぷる～ぷのコース等も含め一体的に考えていかなければいけない。そういうことも県は踏み込んでいないのではないか。どこまでやる気になっているか心配だ。全然前に進んでいないので、皆さんの意見もいただきながら、どうあるべきか今から議論していく必要があるのではないか。むしろ、80 年を超えた先にどうするかという議論も必要だ。

それで、今日の最後の課題として皆さんに意見を伺いたいのは、80 年後にどうあるべきなのか。このピースツーリズム懇談会のあり方の問題もある。それについては、事務局の方でいろいろ考えてくれているが、もし皆さんに意見があれば伺いたいと思うが、いかがか。

（瑠璃委員）

被服支廠の問題について、例えばまず 1 棟だけ先に、使い始めるという可能性もあるのでは、と思っている。比治山に上がると、やはり被服支廠が見える。国内外の訪問者にも、そこにレンガの建物があると、魅力的に見える。そして、そこからルートがつながり、旅が広がっていくということもある。だから、なんとかしてこの比治山の方にもピースツーリズムを広げて行きたいものだと思う。

そこで質問だが、比治山にまんが図書館があるが、あれは誰が運営しているのか、どう活用しているのか。アニメや漫画は若い人たちにも刺さるものだが、あの施設を充実し活用できないだろうか。もう

一つ、飲食というのはやはり観光に非常に大切だと思っているが、比治山に行くと休めるところがない。もちろん現代美術館には素敵なカフェがあるが、そのほかにも、比治山を歩きたい家族連れやグループ、一人でも、気軽に寄れる移動式カフェとチェアかベンチが欲しい。昔はちょっと茶店のようなものがあったが、たとえば御便殿があった辺りに何か休める所があれば、比治山にも行きやすくなると思う。

あとは、マップがないのが残念。つまり、比治山へ行って、現代美術館の下にある大きなパネルを見るまでは比治山に何があるかわからない状況なので、ピースツーリズムのサイトにも「平和の丘マップ」のようなものがあれば、行きやすい。今は、歩くか車で行くしかないが、できれば巡回バスで上がっていけるようにすればいいと思う。

例えば、スペインのバルセロナでは、ガウディの建築を回るためのマップがあり、スマホで見ることもできて、「これとこれとこの家を制覇した、インスタに載せた」という達成感が得られる。それを容易に楽しめるのは、ホップインホップアウトで便利な巡回観光バスもあるからだ。同じ様に広島でも周遊券や一日券などを使って、簡単に観光スポットで乗り降りできて、その位置関係が一目でわかるようになっていれば、足を伸ばしてみたくなる。それで、ピースツーリズムの正規ボランティアバッジをつけた人に、一緒にそれを回ってもらえればと思っている。

（大芝委員）

被服支廠は随分立派で、活用しないのは非常にもったいなく、残念の極みだ。それから、その歴史を考えると、広島の被爆だけではない話が 1 番分かりやすい所でもあり、そういう意味でもぜひ活用してほしい。

どんな活用の仕方があるかについては、いろいろな形で皆さんにアイディアがあると思うので、それに従うのが良い。私がピースツーリズムの中に一つ入れてほしいと思うのは、広島のことなので広島から発信するのはもちろんコアなのだが、同時に広島以外の地域のいろんな戦争、戦災の話を聞く場として、広島はもっと拠点になっても良いのではないかと思う。日本全国にいろいろな戦災、戦跡もあり、そういう人達と話をする場を、被服支廠ほどの立派なものがあるのだから、そこで毎年 1 回、都道府県から話をしてもらい、我々がそれを前段としてそこで聞くという形にしてはどうか。もちろんその 1 番コアとなるのは、日本の場合はやはり被爆だと思うので、それが中核となって、戦災の話、場合によってはもう少し広い被災の話も入るかもしれないが、そういうところの一つの拠点として、あそこでなくても良いが、場があるのになぜ使わないのかともったいない気がする。だから、ピースツーリズムの中でいろいろなことを広島から語るのも良いが、他の都道府県から来る人が聞く時に、自分の所にもこういうことがあるという話をお互いにすれば、聞いてももらえるし、広島の話も分かるところがあると思う。ぜひ広島のピースツーリズムの、第 2 段階として発信と同時に受信にも力を入れる。もちろん第 1 段階が基礎で、それを大前提にして、次のステップに行く時にはそういうことを期待している。恐らくアジアの人なども関心を持つ一つのきっかけになると思うので、ソフト面でぜひやってほしい。そして、ハード面で、被服支廠があるのになぜこれを使わないのか、もったいないの一言に尽きる。

（渡部委員）

私が今日言うべきことを 3 つ書いていた中で、ピースツーリズムのルートをいろいろ考えていた時に、原爆文学も含めて、「文学の道」があったら良いなと思った。それからもう一つ書いていたのが、「戦争への道」だ。戦争への道がいくつもある。被服支廠もその最たるものだし、いくつも何々廠という建物もあるし、例えば、考えてみれば旧 ABCC のかまぼこ型もそう言える。様々な戦争への道があって、それ

からもう一つは復興への道というのがあると思うが、その復興への道の中には、海外からの支援の道や、復興するだけじゃなく、今度は私たちが支援をする、その支援と復興の道みたいなものが利用できるその拠点。最初に広島市が１棟使うとしたら、遺品の保存場所だ。平和記念資料館も、公文書も、そして広島大学ももう恐らくいっぱいに近い。

今、被爆者の家族が遺品の整理をしきれず、貴重な記録がなくなってしまっているのがとてももったいないので、ひとまずそれをお預かりできればと思う。そこに、願わくは、追悼平和記念館のように、きちんと学芸員のお金が国から降りてくれば１番良い。資料整理をするには人も施設もいるが、大事な遺品がなくなる前にお預かりできる、倉庫的でもいいのでひとまずそういうスペースとして、将来を見越して、そこが開かれた資料庫になることもできるのではないかと思う。

それからもう一つ、今どうしてもやらなければいけないと思っているのは、159 本ある被爆樹木だが、この価値は素晴らしい。昨年、ノルウェーオスロで「戦争被害者としての自然」というセミナーを、オスロ大学のオーセ副学長が開いてくださり、ソマリア、南米、そして広島の被爆樹木のケースが報告された。被爆樹木には非常に深い大きな価値があり、かけがえのない木である。それが今のまま保全の何事かをしなければ、この間のように間違って切られたり、あるいは、あまりにも被爆樹木に関心を持たれると、被爆樹木の周りを踏み固められて木が傷んだりする。それから、今は緑政課の方で気を付けてくれるようになったのでもうないが、ドリミネーションの時に電線が巻かれたりしていた。他にも、白神社の所に屋台が出て、ムクノキが１本ラーメンの汁で傷んでしまい、その木はもうなくなってしまった。そういう保全策をかけがえのないものにすることを、皆で考えるのが大事だ。ぜひ市を挙げて取り組み、残していく。なくなる前に保全し、守っていくことが急務だと思っている。

（瑠璃委員）

被爆樹木に関して、私のゼミ生の留学生が、被爆樹木について学びたいと研究している。その理由は、原爆を生き延びた自然の命を大切にするという広島の取り組みに、国境を超えて共感できるからだという。それを自国の政策などにも反映したいそうだ。これは私にとっても大きな発見だった。広島の緑を生かしたツーリズムもピースツーリズムと考えたい。

（原田座長）

蛇足として、最近、友人と話をしたのだが、函館では私有地の敷地内に一般の観光客が入ってきて、雪合戦をしたりするので迷惑をしているという話だった。オーバーツーリズムが本当に良いのかどうか。たくさん来てくれてお金を落としてくれるのは非常に良いと思うが、ここから先はどうなるのか。訪日客の目標 6,000 万人と言われているが、これは鎌倉や京都だけの問題ではない気がしている。広島へいかに多くの方を迎え、おもてなしをどういう格好で対応していくか、これも一つのポイントだと思い、話をした。

この懇談会を今後どうするかということだが、来年度のこと等、事務局の方からまとめをお願いする。

（事務局）

この懇談会が今後どうあるべきか、どうするかというところについては、皆さんの意見を伺いながら、原田座長とも相談しながらまとめていきたいと考えている。今のところ年に 2 回開催しているが、令和 7 年度は、今のところ、いただいた意見を翌年度の予算に反映できる 7 月頃に開催をさせていただこうと思っている。本日頂いた貴重な意見については、今後の事業推進に当たり参考とさせていただきたい。